

# 横須賀市政策評価委員会報告書

---

(令和3年度(2021年度))

横須賀再興プラン(最重点施策)

横須賀市実施計画  
横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略

令和3年(2021年)9月

横須賀市政策評価委員会

## 報告書の記述内容について

- ▶ 横須賀再興プラン（2018～2020年）では、4つの柱を最重点施策として設定し、達成状況を測るための数値目標と、施策の進捗状況を検証するための重要業績評価指標（KPI）を設定している。
- ▶ 本報告書は、政策評価委員会で議論された内容を、柱ごとに分類し、まとめたものである。
- ▶ 「地方創生関係交付金等事業についての意見」「(コロナ対応)地方創生臨時交付金事業についての意見等」を併せて掲載している。

## 目 次

1	最重点施策の柱ごとの意見等	1
	柱1 経済・産業の再興	1
	柱2 地域で支え合う福祉のまちの再興	3
	柱3 子育て・教育環境の再興（整備・充実）	5
	柱4 歴史や文化を生かしたにぎわいの再興	7
	その他の重点施策	10
2	地方創生関係交付金等事業についての意見	11
3	(コロナ対応)地方創生臨時交付金事業についての意見等	16
	<b>【参考資料】</b>	17
	○横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略	17
	○地方創生関係交付金について	18
	○(コロナ対応)地方創生臨時交付金について	20
	○横須賀市政策評価委員会委員名簿	22
	○政策評価委員会条例	23

# 1 最重点施策の柱ごとの意見等

## 柱1 経済・産業の再興

### (1) 横須賀経済のポテンシャルを生かすことについて

- ・ 東京－九州フェリーの横須賀～北九州新航路の開設を契機に、更に発展していただきたい。
- ・ 国道 357 号線の整備が進めば、さらに北関東へつながりやすいなど利点は多くなる。
- ・ 三浦半島は、閉鎖経済圏であり、製造業にとっては原材料、完成品の輸送コストがリスク要因となる。企業流出は、人口の流出にもつながるため、地域特性を十分に分析した取組を推進していただきたい。

### (2) 地域経済を支える人材の育成・創出について

- ・ 子どものころから横須賀市内の産業、企業に理解や興味をもってもらうため、関係機関の協力を得ながら、小中高生を対象とした企業等訪問会や業務体験会などを様々な業種で実施できないものか。
- ・ 一部業種で実施されていることは承知しているが、商業、工業、農業、水産業、福祉施設他、市内の様々な業種に徐々にでも広がるとよい。

### (3) 中小企業等の人手不足、働く人の雇用環境の改善に向けた取組みの推進

- ・ 横須賀市、ハローワーク、横須賀商工会議所が就労支援事業に関する協定を締結し、市内雇用対策に取り組むことは、非常によいことである。
- ・ 市内中小企業等のインターネットによる企業情報発信が弱く、就活生に届いていない。「よこすか就職応援ポータルサイト」等により、登録制の企業情報発信等を検討して頂きたい。

#### (4) 中小企業の活性化について

- ・ 地域経済の基盤となる中小企業の活性化に向けて、近年では、法人会も地元のために何かできることはないか模索しているようである。法人会との連携もできるとよい。

#### (5) 買い物困難者への支援

- ・ 高齢者の増加、地元商店の減少などによる買い物困難者がいる地域が増えてきている。移動販売を行うスーパーもあるが、駐車場所の確保が一つの課題になっている。一定のルールを定めて、市営住宅や市が管理する場所を提供したり、個人や民間が所有するスペースの提供協力を募ったりすることで、移動販売や宅配事業の支援とそれらの普及を図るとよい。そうすることで、買い物困難者のニーズに応え、小売店や商店街が元気になるのではないか。

#### (6) 横須賀のおいしい食を生かすことについて

- ・ 横須賀野菜、魚のブランド力はとてもあると感じている。
- ・ おいしい食について、さらに周知・広報の重要性が増している。3つの浦（近海）から獲れる海産物、イタリア野菜を含めた三浦半島の野菜など売り出せるものをさらに周知していきたい。
- ・ 域内消費拡大を進めていくにあたり、観光客数および滞在時間を長くすべきであることは明白であるが、「おいしい食」とともに「名産」をつくっていくことも必要である。

#### (7) 西海岸の魅力向上

- ・ 用途地域等の見直しに伴い、東海岸側とは異なる魅力的な施設、例えばアウトレット、(パチンコ以外の) アミューズメント施設、スポーツ施設など、集客に繋がる施設を誘致できるとなるとよい。
- ・ 外国人の友人達が立石のダイヤモンド富士を撮影しに何度も出かけていた。走水からもダイヤモンド富士を見ることができる。富士山は日本人にとっても外国人にとっても特別魅力なものなので、富士山の見える場所をルートとして提案するのもよい。

## 柱2 地域で支え合う福祉のまちの再興

### (1) 福祉・介護サービス分野における人材確保

- ・ 福祉・介護サービス分野では、従事者の離職も多く、人材確保に苦慮している施設・事業所も多い。雇用促進と定住促進施策とを一体的に進めていくことが、効果も大きく、大切である。市内の福祉施設・事業所等に就職し、一定年数以上市内に居住した方への支援金または貸付金（貸付金の場合は、一定年数以上居住と勤務を継続したときは償還免除）のような仕組みがあるとよい。あわせて、市の「ごきんじょぶ」の取り組みも一緒に進めていく必要がある。

### (2) 日常におけるさまざまな不安の解消に向けた相談体制の充実

- ・ 「ほっとかん」で行われている食糧支援について、市が困窮する学生、市民のため寄贈を呼び掛けたところ、連日多くの食料品が届いていると聞いている。寄せられた品をより上手く配布する手段の一つとして、関係機関や地元住民の協力を得ながら実施すること、例えば地域生活相談事業を行っている行政センターにて配布するなどを検討されたらどうか。

### (3) 市民活動・地域活動に参画しやすい環境づくり

- ・ 現在、市民活動支援として、「市民協働推進補助金・市民協働モデル事業」等の補助金支援事業があるが、「市民協働モデル事業」については、3年間のモデル事業を完了した後、具体的に横須賀市の施策として取り入れられる事例は少なく、NPO 団体等にとっても、資金力から、申請事業が途絶えてしまうことも多い。「市民協働モデル事業」は、趣旨として「地域課題の解決」「市民団体と行政が対等な立場で役割分担を定め実施」「市からの委託事業化」「協議会形式による事業化」等、謳われていることから、継続を前提とした予算化等、検討を頂きたい。
- ・ 「市民協働推進補助金」についても、申請は3回までとなっており、市民活動として、行政で出来ないことを民間主導で実施しているが、申請回数の上限があることから、行政にとってメリットのある事業でも、資金面により継続することが困難となっている。制度の見直しを含めた検討を頂きたい。

#### (4) 地域コミュニティの活性化

- ・ 高齢者や単身者が増えていく中で、地域コミュニティは、これからさらに重要になっていく。うわまち商店街では定期的にラジオ体操を行っていて、時間になると商店街全体にラジオ体操の音楽が流れ、お店からオーナーさんが出てきて、お隣さんにご挨拶やラジオ体操をしている。ラジオ体操でなくても、このような取り組みを地域で行えば、安否確認はもちろん、近所の交流、助け合いなどが自然と生まれてくるのではないかと感じる。

#### (5) 障害者ワークステーション事業

- ・ 障害者ワークステーション事業を継続し、更に就業についての見える化を加速化していくと優しい地域になると思われる。

#### (6) 在宅医療・介護連携の取組

- ・ 医師会の協力もあり、在宅医療・介護連携の取組は素晴らしく、在宅看取り率も他都市より高い水準を保っている。人口減少や人手不足の課題もあるが、地域の力をしっかり活用して、取組を支えていく必要がある。

### 柱3 子育て・教育環境の再興（整備・充実）

#### （1）横須賀の特性を生かした教育機会の提供

- ・ 横須賀市にはベースもあり、アメリカ人と関われる機会は他都市と比べると多いと思う。市民が英語に触れる機会を更に増やし、「英検3級の検定料金の金額助成」というよりも、「中学校3年生で英検3級が取れます！」くらいのインパクトがある施策を打ち出した方が良いのではないか。他市との差別化も含めて、PRの工夫が必要である。

#### （2）子育て世帯の経済的負担の軽減

- ・ 給食無償化を実現できないものか。  
子育てには多大な費用がかかるため、産みたくても産めない状況は変わらない。そのような中で、横須賀市では小児医療費や幼稚園・保育園等は無償化し、今年度からは中学校給食を開始するなど負担軽減に繋げていることを評価する。そして、子育て世代の定住を促進するためにも他都市との差別化を図ること、お得感を感じる事が重要である。ましてや子どもの貧困が深刻化する中、経済的に苦しくなった際に切り詰められるのは食費となってしまうため、給食の意義を食育と、教育の一環と捉え、義務教育費に準じて給食費の負担を無くすことができないものかと思う。しかしながら、無償化には莫大な予算がかかる。持続可能な計画が、継続的な予算確保が必要であるが、国庫補助の採択や財源の確保は難しく実現へのハードルは高い。とはいえ、今後は財源他の課題を抽出し、横須賀方式として例えば基金を創設、寄附を募るなど、実現方法を模索・検討し始めてもらいたい。

#### （3）小児医療費助成事業

- ・ 小児医療費助成事業（中学3年生まで拡大、所得制限の撤廃）は、魅力ある施策の拡大で、移住希望者にもアピールすることができる。



#### (4) 教育環境の魅力の創出

- ・ リモートが進んで首都圏にいなくても仕事ができる、新しい生活様式が定着してきている。住まいを選ぶとき、地価などの価格とともに、子育て環境や教育水準も気掛かりの一つになる。
- ・ バランスの良い教育を希望する保護者が多い中、学校教育とともに、コミュニティスクールなど地域が教育に関わることの重要性が高まっている。
- ・ 地域で子どもの成長を見守ることで、地域愛も醸成され、将来的な関係人口や交流人口の創出にもつながる可能性がある。

#### (5) 地域における世代間交流や国際交流

- ・ 横須賀は、町内会加入率が高く、地域のイベントには、幅広い世代・多様な国籍の住民が参加している。こういった環境を活かした取組を推進していただきたい。

## 柱4 歴史や文化を生かしたにぎわいの再興

### (1) アーバンスポーツ・eスポーツを活用したまちづくり

- ・ YOKOSUKA e-Sports CUP については、市民向け認知、市外向け周知を促進し、ブランディングを推進していくのがよい。令和2年度は、オンラインでの開催となったが、今後は、歴史や文化を生かした会場など、魅力的なオフラインの開催など、さらに事業を充実させていただきたい。
- ・ 新しい取組なうえ、オンライン開催となったため、周知が行き届いていないように感じる。e-Sports は、様々な世代が参加できる取組なので、更なる盛り上がり期待したい。

### (2) 地域の祭りを利用した観光施策

- ・ 観光にも大きく寄与しているような地方の有名な祭りのように、市内各地域の祭りをPRすることはできないか。江戸時代から続いている祭りも多くあるようである。神事が伴う祭りであっても、地方では行政が観光施策の一つとして積極的にPRしているように思うが、日本の伝統文化の一つとして捉えPRすることはできないか。

### (3) 日本遺産など歴史遺産を巡る「ルートミュージアム」の構築、新たな周遊ルートの整備による集客の促進

- ・ コロナ禍以前は、記念艦三笠への集客向上により三笠公園にも多くの観光客等が訪れていたが、老朽化等により三笠公園への集客力が弱まっている。三笠公園のリニューアルを含め、検討を願いたい。
- ・ ティボディエ邸の開館により、ヴェルニー公園の魅力も高まっている。リピーターを呼び込むためにも「横須賀造船所めぐり」等の動画シリーズの作成等を検討頂きたい。
- ・ ヴェルニー公園は、近年、バラ公園としても人気が高まっている。全国各地のバラ公園は、遠路からも多くの観光客が集まっていることから、「春のローズウィーク」の拡大・周知等の更なる検討を頂きたい。

#### (4) うみかぜの路を活用した取り組み

- ・ 海辺つり公園には、現在、多くの釣り客が訪れ、賑わいをみせているが、家族連れで楽しめるような遊具や飲食等の施設がない。イベントでは、屋台等を見かけるが、家族が1日遊べるような遊具等の設備を検討頂きたい。

#### (5) スポーツを核としたまちづくりスポーツによる集客促進

- ・ ウインドサーフィンワールドカップ大会の開催地のわりに、海沿いの賑わいがあまりないように思う。W杯の開催は中止となったが、今後各地からウインドサーフィンの選手がやってくるのであれば、海側から見える街並みも、考えた方が良いのではないか。

#### (6) 猿島の活用

- ・ アートなどさまざまな発信効果の高いイベントの開催は、話題となったので、継続的に続けられると素晴らしい。
- ・ 費用対効果も考え、継続のために市民やNPOなどでも実現できるような事業にしてもよい。
- ・ たとえば、七夕（7月7日）には、毎年うみかぜ公園と猿島の両方で海岸をライトアップするなどが考えられる。継続していけば、話題が広がり将来的な集客につながる。

#### (7) 横須賀の海が感じられる場所での新たなにぎわいづくり

- ・ 「佐島や長井地区」は、都心からもそう遠くはなく、とても魅力的な場所である。「すかなごっそ」とも連携してお魚、野菜のお買い物ルートとしてもよい。ただ、佐島、長井地区の海岸通りは道幅がとても狭いという課題を考えつつ、プランを練る必要がある。

#### (8) 横須賀しょうぶ園の更なる活用

- ・ しょうぶ園にあるふじ棚は、小規模ながら来訪者を楽しませている。特に、外国人はふじの花をとても魅力的に思っているので、観光の目玉にできるのではないか。

#### (9) 「ナイトタイムイベント」や「モーニングイベント」の充実

- ・ ナイトタイムやモーニングタイムを活用したイベントを充実させることが、観光客の滞在時間の延長や消費額の増加につながるのではないか。
- ・ 夜のライトアップや花火、音楽イベントと、翌朝の朝市をセットで企画するなどの工夫で、滞在時間の延長が期待され、観光客にたっぷり楽しんでもらえるのではないか。

## その他の重点施策

### (1) ファシリティマネジメントの推進

- ・ 事業を実施するにあたり、イニシャルコストやランニングコストといった費用面、その事業効果について、着手前に十分な検討を行うことが大切である。事業開始前に、外部評価を取り入れて丁寧に取り組を進める必要がある。

## 2 地方創生関係交付金等事業についての意見

---

### 三浦半島魅力深化プロジェクトの取組 «プログラミング人材育成事業»

---

- ・ 中高生の参加者が、IT 関連に進学や就職した後も、地域への愛着を持ち続け、横須賀との関わり続けてもらうには、横須賀と子どもたちをつなぐものがあるとよい。
- ・ 市役所前公園に入賞者の名前を刻んだ敷石や手形を敷いたり、バスのアナウンスで一定期間、取組の功績を流したり、よこすか野菜に入賞者の名前の一部をつけたり、本人と横須賀をつなぐ何か残るものがほしい。
- ・ 2020 年度には全国規模のコンテスト (U-22) の予選を 1 名突破し、2021 年度も入賞を目指すことが掲げられている。市全体で、参加している子どもたちを応援している機運をつくることで、子どものモチベーションも高まる。
- ・ プログラミング経験者をさらに育てるのではなく、イベントに参加してプログラミングに興味を持つきっかけになれば良いと思っている保護者も多いと感じる。
- ・ プログラミング事業に中高生が集まり、体験会についても人気と活気があり関心度の高さが伺えた。集中的に投資を行い、ブランディングを目指するとよい。

---

## 三浦半島魅力深化プロジェクトの取組

### 《海洋関連産業等の創出・集積に向けた人材育成事業》

---

- ・ 子どもたちの海洋に対する関心が高く、将来的に地域の海洋関連産業への就職を希望する声もあるようなので、今後の事業の充実が望まれる。
- ・ 市内には、JAMSTEC だけでなく、海洋学科を設置する海洋科学高等学校や同学校の関連した部活もある。さらに、海産物加工の企業や市場、漁協や漁師さんなど、協力をお願いできるところはたくさんあると思われる。
- ・ 「横須賀海洋クラブ」の結成を高く評価する。  
海洋都市横須賀を市内外にアピールすることもできる。  
主催は横須賀市でありながら、実に様々な研究機関・民間企業等が協力・連携されており、多くの時間と労力も費やされたことと察するが、子どもたちが各分野の専門家の指導のもと、楽しみながら学ぶことで海洋関連業務を身近に感じ理解するとともに、これを機にそれらの業務に就きたい等、人材育成に貢献されていることを大いに評価する。
- ・ 三浦半島ならではの地形を活かした海洋クラブの結成は、独自性が強く海洋資源および海洋環境に更なる興味を持たせることができるので、長期間での継続事業として発展していただきたい。地域資源を活かすということでは、財源を変更しつつも継続していただきたい事業である。

---

## 三浦半島魅力深化プロジェクトの取組

### 《よこすか野菜 PR 事業》

---

- ・ 「すかなごっそ」は、市内からの来客割合が増加とあるが、市外から観光等で来訪された方の利用の方が多い印象がある。局所的な経済効果だけを見るなら売ればそれでもいいが、今後は、学校給食はもちろん、市内の飲食店にもよこすか野菜を中心に扱ってもらえるような働きかけがあるといい。
- ・ 地方の名産品の PR では、地元民にも日常的に食べられており、その地域の自慢の一つになっているものが多い。よこすか野菜の今後の充実を目指すという点では、まず地元知られて愛されることが大切である。
- ・ よこすか野菜の魅力発信は、市内外に対してさらに強化すべき事業である。域内だけでなく、域外への出荷もステイタスを保った形で展開を期待する。
- ・ データに基づくマーケティングにて発信方法を変更し推進していきたい。

---

## 三浦半島魅力深化プロジェクトの取組

### 《マリンスポーツによるまちづくり事業》

---

- ・ 関係人口を増加させる手法のひとつであるので、半島全体でのブランディングを保ちつつ多角的な魅力発信を期待する。



---

## 三浦半島魅力深化プロジェクトの取組

### 《都市魅力 PR 事業》

---

- ・ 横須賀の音楽といえばジャズ、という割には「ヨコスカ ジャズ ドリームス」や「横須賀トモダチジャズ」といった年1回のイベントを除いては、横須賀中央のメインストリートにベンチの銅像もあるが、日常的に意識できる機会が少ないと感じる。
- ・ ジャズだけにこだわる必要はないが、中高生から社会人まで合わせれば、市内にバンド人口は多いと思うので、ジャンル別、世代別のコンテストの開催や、優秀なバンドを表彰し、本人と横須賀をつなぐ何か記念に残るものがあるとよい。
- ・ 県の地域の魅力発信事業に追随し、半島各市町の事業の方向性を出して PR しその中での特色を出していく方策はどうであろうか。市（半島）外から地域に対して身近に感じるよう関係人口の創出・定住を促す都市環境の整備を進めていきたい。

---

## ルートミュージアム構築による賑わい創出事業

---

- ・ ルートミュージアム構想は、点在する観光資源の体系立てに大きく貢献しており納得性の高いものである。回遊性を高めるための周知や公共交通機関のルートづくり、来訪目的の複合化を構成することで、域内消費拡大につながる。
- ・ 近代歴史の曙を楽しく有意義に学べる施設と思う。
- ・ コロナが落ち着き、コロナ後までの集客が少ない時に、市内小学校で学校外での学習施設として最適だと思う。少しでも、子どもたちに横須賀の歴史を肌で感じてもらえるとよい。
- ・ バルコニーから海が見えてロケーションも良いので、将来バルコニーをカフェとしてもよい。カフェは、近くのコルセールと共同でもよい。横浜山手の洋館（エリスマン邸）のカフェなどは大人気である。バルコニーで、プチコンサート（フランスや開国をテーマにしたものなど）もできる。
- ・ 館内で、横須賀の歴史史跡、観光地の写真カードを無料で配布しており、うれしい。日英対訳つきで、英訳のほうが日本語より詳しく書かれていることに、力の入れようを感じる。カードは、地域ごとに符号をつけられていたが、符号が付記された横須賀全体の地図もあると参考になる。
- ・ 訪問した時、ちょうど小栗がアメリカから持ち帰ったネジが展示されていた。NHK大河ドラマでちょうど、ネジの映像が流れていた時なので興味深かった。

---

## ICT を活用した観光周遊の基盤づくり促進による地域活性化推進事業

---

- ・ インフラから発展するだけでなく、魅力あるルートの組成・ストーリー性をもつ設計が重要であり、観光消費につながる形で検証し構築していただきたい。
- ・ 得られたビッグデータの解析にあたっては、流入経路・告知・域内消費拡大の効果をデータ分析することで有効的な施策をうって進めたい。データの所有・利活用者をどのように設定しているのかも重要なエレメントである。

### 3 (コロナ対応) 地方創生臨時交付金事業についての意見等

#### (1) コロナ対策に伴う経費負担

- ・ 多くの事業が、コロナ対策を意識せざるを得ない1年だったと見受けられる。感染対策として、除菌水やパーテーションの購入等の事務経費負担や、新しい生活様式の実践・推進といった実務負担が重なるなか、様々な支援策を講じられていることで横須賀市役所の奮闘が感じられた。感謝するとともに、引き続き市民に寄り添う支援をお願いしたい。

#### (2) GIGA スクールの早期実現

- ・ 1回目の緊急事態宣言が出たときに、横須賀市 PTA 協議会で保護者を対象にアンケートを行い、90%以上の保護者が何かしらの IT を使った在宅での教育支援を望む結果が得られた。
- ・ 横須賀の中学校では、1人1台 Chromebook が導入され、授業の場や、生徒の活動の場で有意義に活用されている。オンライン生徒総会を試みた学校もあると聞いている。環境が整ったことに、保護者も非常に安心している。
- ・ GIGA スクールの早期実現に対して、感謝と評価をしたい。

#### (3) 文化財活用観光促進事業

- ・ コロナ後のインバウンド市場の回復に合わせた PR として、外国人の興味や関心を踏まえた観光戦略が望まれる。

#### (4) よこすか「地元のお店」応援券事業

- ・ 紙の冊子での応援券だけではなく、オンライン決済ができるような仕組みの導入も検討していただきたい。

## 【参考資料】

### ○横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略

急激な人口減少、少子高齢化がもたらす負の影響を考察した上で、将来にわたって活力ある地域経済・社会をつくるため、まち・ひと・しごと創生法に基づく国および県が定める総合戦略を踏まえて、「横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略」（計画期間：2015年度～2019年度）（以下、総合戦略）を策定した。さらに、2020年度から、「横須賀再興プラン（横須賀市実施計画2018～2021）」と統合する形で2021年度まで延長した。

総合戦略では、基本計画や実施計画において、それまで本市が重点課題の解消に向け取り組んできた施策展開を前提に、4つの基本目標の実現に向けた施策分野の取り組みをさらに充実させていくという考えの下、必要な施策を展開している。

#### 《総合戦略の政策分野（4つの基本目標）》

- 基本目標1 市内経済の活性化を図り、雇用を創出する
- 基本目標2 定住を促す魅力的な都市環境をつくる
- 基本目標3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 基本目標4 人口減少社会に対応したまちづくりを進める
  - 【4-1 空き家対策・都市のコンパクト化】
  - 【4-2 健康・医療・福祉対策】

なお、平成30年（2018年）に策定した「横須賀再興プラン」は、先に策定した総合戦略の方向性も包含しており、4つの最重点施策は、総合戦略の基本目標に対応している。

#### 「横須賀再興プラン」における最重点施策（柱）との対応関係

横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略		横須賀再興プラン	
基本目標1	市内経済の活性化を図り、雇用を創出する	柱1	経済・産業の再興
基本目標2	定住を促す魅力的な都市環境をつくる	柱4	歴史や文化を生かしたにぎわいの再興
基本目標3	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	柱3	子育て・教育環境の再興（整備・充実）
基本目標4	人口減少社会に対応したまちづくりを進める	柱2	地域で支え合う福祉のまちの再興

---

## ○地方創生関係交付金について

---

### 1 地方創生関係交付金の概要

総合戦略の策定および実施に当たり、国が、地方公共団体が適切な効果検証の仕組みを伴いつつ自主性・主体性を最大限に発揮できるようにするための財政的支援として、このような交付金を創設している。

### 2 交付金事業の検証について

交付金事業については、事業の推進状況を測るための重要業績評価指標（KPI）を設定した上で、KPI を用いて事業の進捗・達成状況等により検証を行うとともに、学識経験者等の第三者の意見を聴取することが国から求められている。

### 3 令和2年度（2020年度）地方創生関係交付金等事業一覧

#### ①地方創生推進交付金

(円)

事業名	交付金額
三浦半島魅力最大化プロジェクト推進事業※ ※神奈川県および三浦半島4市1町による連携事業 うち、横須賀市実施事業	—
プログラミング人材育成事業	5,970,000
海洋関連産業等の創出・集積に向けた人材育成事業	119,856
よこすか野菜PR事業	985,933
マリンスポーツによるまちづくり事業	0
アーバンスポーツやeスポーツによる地域ブランディング	3,068,554
都市魅力PR事業	1,401,939

事業名	交付金額
ルートミュージアム構築によるにぎわい創出事業	2,470,400
ICTを活用した観光周遊の基盤づくり促進による地域活性化推進事業	4,313,075

#### ②地方創生拠点整備交付金

事業名	交付金額
うみかぜ公園スケートボードパークリニューアル事業 *事業実施は平成29年度（2017年度）	— (24,895千円)

---

## ○(コロナ対応)地方創生臨時交付金について

---

### 1 (コロナ対応)地方創生臨時交付金の概要

新型コロナウイルス感染症の拡大防止策及びポストコロナに向けた経済構造の転換・好循環の実現についての対応として、地方公共団体が地域の実情に応じてきめ細やかに効果的・効率的に必要な事業を実施できるよう、(コロナ対応)地方創生臨時交付金実施計画に基づく事業に要する費用に対し、国が交付金を交付している。

### 2 交付金事業の検証について

交付金事業については、事業終了後に、事業目的・事業内容に応じて、アンケート調査その他の適切な方法により効果を測定するとともに、実施状況及びその効果についてホームページへの掲載により公表することが求められている。

### 3 (コロナ対応) 地方創生臨時交付金を活用した主な取り組み

総事業数 67 事業      総事業費 37 億 504 万円  
うち臨時交付金活用額 32 億 3,986 万円

#### 1 医療の充実

- 重点対応医療機関への支援
  - 抗体検査の実施
  - PCR センターの運営費補助 ほか
- 7 事業      総事業費 3 億 3,457 万円  
うち臨時交付金 1 億 4,518 万円

#### 2 経済対策

- 中小企業等の事業所、店舗などへの家賃補助
  - 市内製造業等の生産性向上支援
  - よこすか「地元のお店」応援券事業 ほか
- 12 事業      総事業費 17 億 7,467 万円  
うち臨時交付金 17 億 1,138 万円

#### 3 住民生活の維持と新しい生活様式の導入

- 次亜塩素酸水の市民への配布
  - 新しい生活様式に対応した住民異動窓口システムの導入
  - 避難所での感染リスクを減らすための必要な備品の整備 ほか
- 12 事業      総事業費 1 億 7,824 万円  
うち臨時交付金 1 億 2,045 万円

#### 4 福祉・教育の推進

- 介護施設等への衛生用品購入費補助
  - 学校机用飛沫防止パーテーションの設置
  - 保育所等への支援員の配置 ほか
- 23 事業      総事業費 12 億 5,956 万円  
うち臨時交付金 11 億 619 万円

#### 5 V 字回復に向けた観光振興

- 文化財を活用した観光促進
  - オンラインライブ配信による音楽関連事業者の応援
  - ツアーバスの誘致、観光プロモーション活動 ほか
- 5 事業      総事業費 1,480 万円  
うち臨時交付金 1,394 万円

#### 6 その他 市独自の取り組み等

- 公共交通事業者(タクシー、久里浜フェリーや猿島航路)の感染症拡大防止対策への支援
- 市施設内の感染症対策物品の整備
- ウェブページ上での市県民税申告支援サービス ほか

8 事業      総事業費 1 億 4,320 万円  
うち臨時交付金 1 億 4,271 万円



## ○横須賀市政策評価委員会委員名簿

<構成員名簿>

<敬称略、分野別五十音順>

分野	氏名	所属
学識経験者	◇委員長 田丸 大	駒澤大学法学部 教授
	◇委員長職務代理者 牧瀬 稔	関東学院大学法学部 准教授
関係団体	安部 俊一	横須賀市連合町内会 幹事
	一條 英仁	京浜急行電鉄株式会社
	工藤 幸久	横須賀商工会議所 事務局次長 兼 総務渉外課長
	小泉 純一	神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター 企画調整部長
	小林 純子	横須賀市母親クラブ連絡会 会長
	櫻井 聡	横須賀市PTA協議会 会長
	須藤 龍一	株式会社横浜銀行 横須賀支店長
	多田 正基	株式会社神奈川新聞社 横須賀支社長
	馬場 亮	株式会社JTB横須賀支店 支店長
	松尾 健一	社会福祉法人 横須賀市社会福祉協議会 地域福祉課長
公募市民	石垣 薫	—
	川名 亘子	—

※令和3年7月1日現在

---

## ○政策評価委員会条例

---

平成27年12月18日

条例第73号

(設置)

第1条 本市の基本計画において重点的かつ優先的に実行する取組及び総合戦略の評価に関し、市長の諮問に応ずるため、本市に地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定による附属機関として、横須賀市政策評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、委員15人以内をもって組織する。

2 委員は、市民、学識経験者及び関係団体の代表者のうちから市長が委嘱する。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第3条 委員会に委員長を置き、委員が互選する。

2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代理する。

(会議)

第4条 委員会の会議は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員会において必要があるときは、関係者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(その他の事項)

第6条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会の同意を得て委員長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(関係条例の廃止)

2 まちづくり評価委員会条例（平成24年横須賀市条例第7号）は、廃止する。

横須賀市政策評価委員会報告書

(令和3年度(2021年度))

発行年月 令和3年(2021年)9月

発行・編集 横須賀市政策評価委員会